

富雄第三小中学校の特色ある取組

- 1 充実した施設・設備
 - ・ 富三ホール（中学校の朝会やイベント等で使用）
 - ・ ランチルーム
- 2 9年間を見通した英語教育
 - ・ 9年間を通した英会話科
 - ・ 5年生から外国語科
 - ・ ハリソンスクール（オーストラリア）との交流
- 3 特別支援教育の充実
 - ・ 特別支援学級と通常学級の交流
- 4 部活動もさかん
 - ・ 小学5年生からの部活動への参加
- 5 小中で1つのPTA
- 6 地域との連携
 - ・ 登校時間の見守り活動
 - ・ 学校支援図書ボランティアの活動
 - ・ ハリソンスクールへのもてなし
 - ・ 羊の放牧
 - ・ 富雄第三幼稚園との交流（音楽会）
 - ・ 奈良西養護学校との交流
 - ・ 近畿大学と連携した取組（骨密度測定）
- 7 小中合同行事
 - ・ 小中合同の入学式
 - ・ 小中合同の運動会
 - ・ 小中合同の委員会活動（給食委員会等）
- 8 小中別行事
 - ・ 修学旅行
 - ・ 卒業式 等
- 9 ブロック別行事
 - ・ 異学年と合同のレクリエーション活動（ゲーム大会等）
- 10 色々な場面で児童生徒のふれあい
- 11 その他
 - ・ 奈良市独自の郷土「なら」科や情報科
 - ・ 小中教員同士の連携

これからの教育環境を考えるワークショップ第1回「奈良市富雄第三小中学校施設見学」

参加者等から学校への質問とその回答（要点）

問1 富雄第三小学校から国・私立の中学校へ進学する子どもについて

答1

- ・本校から国・私立の中学校へ進学する子どもは、中学校開校前の8年間の平均では14.2%
- ・平成22～26年度の平均では7.6%と半分に減少
- ・このまま本校に進学させようとする保護者が増えていると考えている

問2 小中一貫教育として小学校から中学校まで統一性を持ったカリキュラムに関して、保護者の理解について

答2

- ・PTA総会等を通してカリキュラムや特色について説明しているほか、開校の際に自治会で広く話し合っていたっており、御理解いただいていると考えている

問3-1 開校から30年以上経ったまちの移り変わりについて

A3-1

- ・児童生徒数は、ピーク時は1学年200人くらいいたのが、現在の6年生は98人で、その他の学年は60～70人台が多い
- ・今の1年生は88人と増えたが、来年の予定者は61人、その次は40人台となっていく見込み
- ・そのような理由もあって、隣の校区から通学することが可能な特例を設けており、少しずつ隣の校区から本校を選ぶ児童も増えている状況

問3-2 この地域で育った子どもが子育て世代になって、再びこの地域に住むようになったというようなことはあるか

答3-2

- ・本校で学んだ子どもが成長して、その子どもがここで学ぶというところまでは年数が経っていない
- ・この校区は、お年寄りだけの世帯も増えているし、中古住宅を購入して転入してくる方もいる
- ・少しずつ高齢化が進んでいる状況

問4 通学時間について

答4

- ・通学に要する時間は、低学年の子どもで最大30分程度
- ・校区内に信号はなく、歩道が整備されているので安全面ではそれほど問題はない
- ・希望して隣の校区から通学してくる子どもについては、奈良市がバス代を補助している

問5 特別支援教室の使い方について

小中一貫教育の特別支援学級の子どもへのメリットについて

答5

- ・特別支援学級では、小中合同の取組や年齢等によって個別に行う授業、特別支援教室を通常学級の子どもに開放して交流する取組、特別支援学級での学習と通常学級での交流を組み合わせた取組を行っている
- ・特別支援教室は設計段階から優先して考えており、小学校は広いサイズ、中学校は標準的なサイズだが、どちらも間仕切りを活用し状況に応じて柔軟な使い方ができるようになっており、9学年通して多様な使い方をしている

問6 施設一体型であることでの様々な支援を要する子どもへの支援のメリットについて

答6

- ・全学年の教員が、支援の必要な子どもへの個別の指導法についての研修を受けている。どの教員も全ての子どもに対応できるようにしている。

問7 施設一体型小中一貫校での経験がなく赴任してくる教員の意識について

答7

- ・本校に新たに赴任してくる教員は、小中学校が一体的に運用される本校の運営について、何らかの違和感や発見があるようだが、毎日同じ職員室で小学校の教員と中学校の教員が顔を合わせてお互いのやっていることを見ていると自然となじんでくる
- ・授業時間が違う1～4年生と5～9年生で（合同行事などの）同じことを進めていかなければならない時は調整が難しいが、別々にやった方がいいのか一緒にやった方がいいのか分からない時は、まずは一緒に取り組もうという方針

問8 子どもの学習の理解の進み具合や教え方の違いなどについて、小中学校の教員同士の意識の違いの解決方法について

答8

- ・職員室を一緒にすることによって、小学校と中学校それぞれでできることとできないことを理解した上で指導につなげ、解決することができると考えている

問9 学力等、施設一体型小中一貫校になったことで数字に表れている効果について

答9

- ・比較できるデータがないので検証できない

見学当日の学校の取組紹介から…

＜参考：富雄第三小中学校「平成25年度全国学力・学習状況調査（中3）」より＞

「英語の学習は好きですか」について、そう思う、どちらかと言えばそう思うという

肯定的な意見の割合71% ＜県（公立）平均53.7%、全国（公立）平均53.0%＞

問10 学童保育について

答10

- ・学校の中に併設されており、小学生を対象に夜7時まで実施している
- ・今年1月から試行実施で、4月から本格実施の予定

問1 あなたはどちらのブロックからご参加いただいていますか。

ア 教職員	6
イ Aブロック	5
ウ Bブロック	8

問2 富雄第三小中学校の取組について、特に印象に残ったものは何ですか。

ア 9年間を通じた英会話科	12
イ 5年生以上の50分授業	6
ウ 奈良市独自の郷土「なら」科や情報科	4
エ 標準時数より多い授業時数	12
オ 特別支援学校と通常学級の交流	3
カ 小中合同の入学式	5
キ 小中合同の委員会活動	10
ク 小中合同のレクリエーション活動	4
ケ 異学年と合同の部活動への参加	1
コ 小学5年生からの部活動への参加	10
サ 小中教員同士の連携	17
シ ハリソンスクールとの交流	13
ス 登校時間の見守り活動	1
セ 羊の放牧	9
ソ 学校支援図書ボランティアの活動	3
タ ハリソンスクールへのもてなし	3
チ 富雄第三幼稚園との交流	4
ツ 奈良西養護学校との交流	4
テ 近畿大学と連携した取組	6
その他	1

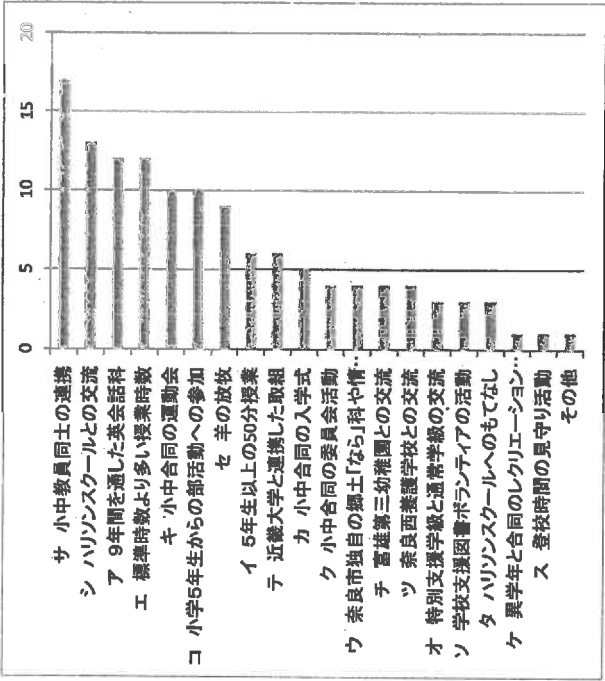
学級定員が少なく設定されている取組

問3 富雄第三小中学校の施設について特に印象に残ったものは何ですか。

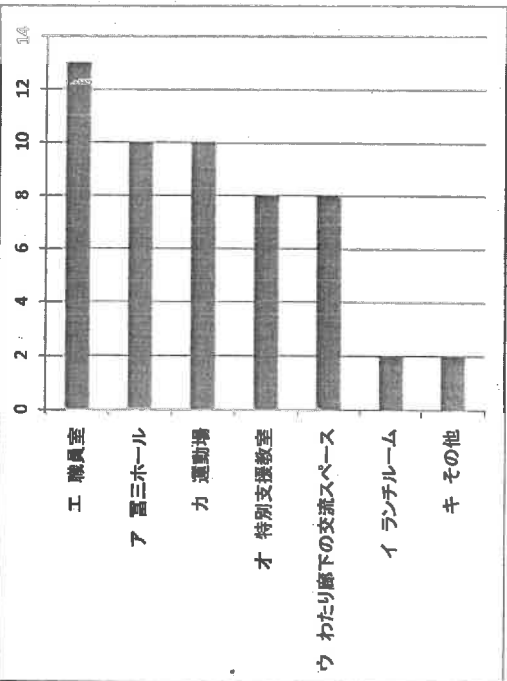
ア 富三ホール	10
イ ランチルーム	2
ウ わたり廊下の交流スペース	8
エ 職員室	13
オ 特別支援教室	8
カ 運動場	10
キ その他	2

給食室、校舎

問2 富雄第三小中学校の取組について、特に印象に残ったものは何ですか。



問3 富雄第三小中学校の施設について特に印象に残ったものは何ですか。



これらの教育環境を考えるワークショップ（第1回）アンケート結果（自由記述）

問2 富雄第三小中学校の取組について、特に印象に残ったものは何ですか。

・全体

小学生と中学生がホールで話をしたり、運動場で遊んでいるのがほほえましかった。私達にもあいさつをして笑顔がかわいかった。
人は交わりの中で己を磨き成長していく。成長期は、全てが教材である。そういう場を沢山体験できる環境が良い。

・授業

6年生の音楽の授業の様子を見て、人数が多くてできていることを感じました。独特な英語の授業やオーストラリアの生徒の交換留学等は生徒の意識も自然と広がっていいことであるように思いました。このような学校が公立であればもっと速くても行かせたいと思いました。

小中がただ単に一つになるだけでなく、教育課程から変えていくことは、大いに賛成。教育特区の指定を受け、新たなカリキュラムを創造することが魅力ある学校づくりになると思う。

・小中学校の連携

合同での行事の取組や、5年生から部活動に参加できることなど、小中一貫校ならではの取組が見られてよかったです。どんなふうに連携できるのかと、不安やマイナスイメージが強かったのですが、「できるんだ」という感想を持ちました。

小中教職員連携が取りやすく、子ども達の指導にあたってでも相談し合える利点があると思います。小学校からの教育方針や取組が一貫していることと継続的な効果が得られることがわかりました。入学式や運動会が合同なのは驚きましたが、兄弟が小中にいる場合など一緒に見ることも（参加）ができ良いと思います。

・ア 9年間を通した英会話科

小学校1年からの英会話。いかに遊びの中から英会話を学ぶか！

カリキュラム

取組み後の児童の変化や反応

・学校の回答

英語嫌いをつくりたくないという方針で臨んでいるので、英語好きが育っていると感じています。英会話科で小学校3年で教えたアルファベットを小学校5年の英語科で再度教えるなど工夫をしています。

・カ 小中合同の入学式

発達段階の違う子どもが同時に行う式はどのようなものか気になる。

・キ 小中合同の運動会

小学生は6年にわたるので、成長段階が大きく異なる。また興味関心も違ってくる。それなのに中学生も含めた9年では低学年の児童が体力的にも意欲的にも長時間可能かどうか、非常に疑問を感じた。

・学校の回答

小学生の出番が多いので、低学年の子どもも興味関心を持って参加している。長時間の参加にはなるが、特に問題にはなっていない。中学生の出番が少ないので、運営スタッフとしてかわかってもらっており、貴重な経験を積んでもらっている。

・サ 小中教員同士の連携

小中の教員が同席するので連携は図られる。

小学校の先生と中学校の先生が同じ職員室にあえてしているということで日常的に顔を合わせる状況になっているのには感心しました。又、5年生以上から50分授業を実施しているのも中学校への接続の部分で大変よいことであると思いました。

小中間の教職員さんが連携してくださるのは安心だと思う。また、小学校の担任の先生方は学級の様々な問題を抱え込みがちになるが、中学校の先生のように1人の生徒に何人もの教員が関わって動く動きができるようになるのではないかと、とも思う。同じ職員室で風通しがよさそうで良かった。小中教員同士の連携については、通常の公立の小中学校の場合、ほとんど連携されていないと思うので、子どものためにもとてもよいと思う。

・シ ハリソンスクールとの交流

英語力↑につながっていると感じるか？

・学校の回答

英語や外国の子どもたちとふれあうことにより、英語や外国人とふれあうことに引込み思案になることはなくなってきたと感じている。

・他 学級定員が少なく設定されている取組

学級定員が少なく設定されているのが良い。1人1人を尊重して指導できるのではないかと。ぜひ定員についての議論を進めてほしいと強く感じた。

問3 富雄第三小中学校の施設について特に印象に残ったものは何ですか。

・ア 富三ホール

○ 授業やミニコンサート、PTAの会合等さまざまな用途があり、設備も整っていてよかったです。眺め良く地域の方も使用でき、実際に使われているところを映像等でも良いので見られると更に良かった。

地域の人達にも開放しているということなので、学校と地域の交流が深まるきっかけにもなると思う。

○ 地域に開放。

ガラス張りのきれいなホールで、地域にも開放している。

- 通常の公立学校と違い、広さも施設も充実している。
 - 仕切りが変えられるところがよかった。
 - 可動式パーテーションとドアで教室が分けられるのは良かった。ただし配置されている所が（特に中学生は）原学級と校舎も違い、隔離されている感が強く感じ、違和感を持った。
 - 寝転ぶ量等がなかったのが気になった。
 - 誰もいないのに暖房がついたまま。少し過保護では？
- ・力 運動場
- 広さ
 - 広い、成長期には飛びまわられる広さが大切。
 - 広い
 - 運動場がたいへん広いこと
 - 生野区では考えられないくらい広い
 - 広くて日当たりも良いと思う。
 - 広くて、自然いっぱい環境が印象的でした。
 - 小中同時に、運動場使用できるので、体育の時間が組みやすい。

・辛 その他

- 校舎。施設内がゆったりとつくられている
- 給食室。中学校で冷たくおいしくない給食が小学校と一緒にすることで施設を使い、あたたかい給食が食べられてよいと思った。

問4 その他自由意見

- （富雄第三小中学校では）小中一貫校にしても生徒数の減少（今年卒業 98 人・今年入学 40 人）は何ら変わらない。根本的な問題を解決しなくては、学校を減らしても解決しない。
- 大阪でも学校の統廃合を夢のある形でまとめてほしいと切望。こういう環境の学校には、通学希望者が多いと思う。
- 実際に小学生と中学生が交流しているところを見ることが出来なかったので隣接している別の小学校と中学校を見学しただけのようでした。
- 小学校体育館での合奏練習は楽しそうで素晴らしいです。
- 他校のそれも小中一貫校を見学できたのは貴重な体験でした。奈良市内では今春より全ての公立学校で小中一貫教育を始めるとの事でしたが、小中が一体になっていない学校での進めていき方や現状についても知りたいです。

- あまりにも生野区と地域性がちがいがい、「小中一貫」については考えにくかった。市内の一貫校を見てみたい。（教育に意欲的な地域で、たくさんの施設を設立できる余裕がある背景は、今の生野

- 階段方式が良い。
 - 地域も使用できる多目的な立派なホールだから非常に斬新な造りで、しかも使い勝手がよい。
 - 多目的に利用できる。
- ・イ ランチルーム
- 他学年で交流できるし、食育の面からも有効
 - 楽しく食べられそう
- ・ウ わたり廊下の交流スペース
- 小学生中学生関係なく話していた
 - 余裕のある広さにびっくり
 - 交流できる場としての工夫があった。
 - 整然と貼られた掲示物や大阪の学校にはない、わたり廊下の飾を見て、大阪市との違いを感じた。
 - 落ち着いたアットホームな印象でした。
 - 生徒・児童がゆったりした心になる。
 - 実際に交流している姿を見てみたかったです。

・エ 職員室

- 小学校の先生と中学校の先生の職員室が同じ場所にあり、常に連携できるようにしてあるところ
- 小中が同じで先生方が連携しやすいように感じた。
- 小中が1つの職員室を使うことでコミュニケーションがよく出来るように感じました。
- やはり一緒に居ることで交流が生まれる。

小中職員が同じ室内なので連携しやすく先生方の取組もわかるし共有できることも多くなる。情報交換がすぐにできる利点もあり。

教員と一緒にいることは連携を取るために重要だと感じました。

- 明るい感じが良い、打ち込んでいるスペース打ち解けたスペースどちらにも「やる気を感じた。」すごく広い

小中合同で1つの職員室

- 小中の教師が同室であること。
- 小学中学が同じ職員室にびっくり
- 机の上に書類が山のように積み上げてあった。

・オ 特別支援教室

- パーテーションで区切ることができていろいろな事に利用したり、支援教室との距離が縮まる様
- に思った。

特別支援教室を仕切ることができ、学年別にしたり小中学生が一緒に取り組めるスペースを作ったりと簡機応変に教室を使えるのが良い。先生方も小中学生の時から様子を見ることができ、学年が上がっても指導しやすいと思いました。

区には合わない。)でも独自性を強く出せるということについては理解できた。英語教育や授業時間を増やすことにあまり魅力を感じず、さらに子どもが閉塞感を持って、学校に行きにくい子が増えるのではと危惧した。

定数を減らす取組、生野区でも議論してほしい。学校運営がどんどん難しくなってきたと感じているので、ぜひ減らす議論を。そうすることで少子化の中にも複数学級制を維持しやすいのでは。

小中一貫校に学童保育が併設されている。いきいきも同じだが、障がいのある中学生、クラブ活動に参加できず余暇支援が必要な中学生も利用できるようにすれば、もし一貫になったとしたらぜひ検討していただきたいと感じた。

- 富雄第三小中学校は人が多くなくてできた小学校に中学も新設した形で、いまの生野は生徒数が少なくなる為の今後のあり方を考えるうえで全く逆の立場でどのようにこの見学が役に立ったのかはつまり言うところよくわかりません。ただ施設を充実することのできる教育の質とかが内容が変わってくるのでその面ではよい見学ができたと思います。生野区のまちづくりや学校のあり方を考えていく上で参考にしていただけたらと思います。

- 学校の様子や子どもたちの表情を見て、学校がうまく成り立っていると思った。もともと新興住宅地であり教育意識の高い地域であり、大阪市とは環境が違うと思う。小中一貫校を見学するなら大阪市の学校を見学したい。

- 小中で活動している場面を見学したかった。
意見交流の時間ももう少し欲しかった。

- 施設・設備の整ったとても美しい学校であった。また、校下の様子も落ち着いており、経済的にも裕福そうであった。この現状と生野区を比べた時、どこをどう参考にしていくべきか、と考えた。

- 小中一貫校として建てられているので設備や教室も考えて配置されていた。理想的な学校像だったと思います。

現在、生徒数が減り23学級で658名とのことで、小規模になりつつあるが統制のとりやすいいろいろな人数だと思いました。

1小1中連携型でも十分に効果は得られると思いました。(小学校が統合された場合)

小規模の方が細やかな指導ができ、いろいろな面で連携も取りやすい(地域含む)のではないかなと感じました。

- 実際に見せていただく事で、新しい発見や良さを感じることができました。地域環境がずいぶんと違いますが、生野区ならではの新しい取組を発想することができるとはいいかと思うきっかけになりました。参加させていただきありがとうございました。

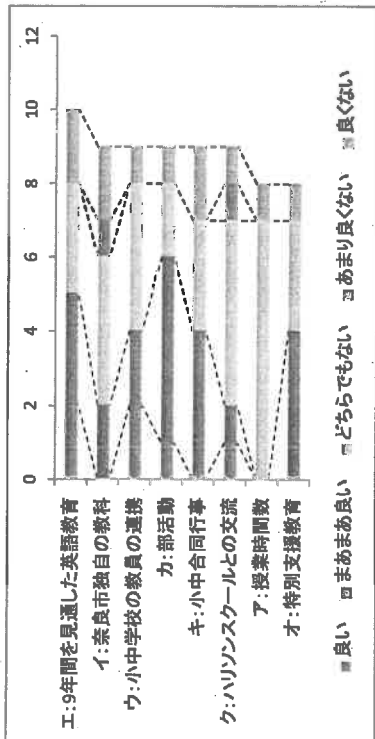
- 地域環境が異なりすぎている。もつとよく似た地域環境の学校を参考にすべきである。

問1 あなたはどちらのブロックからご参加いただいていますか。

ア 教職員	2
イ Aブロック	5
ウ Bブロック	5

問2 富雄第三小中学校の取組について、印象に残った取組とその評価、評価の理由をお答えください。

	良い	まあまあ良い	どちらでもない	あまり良くない	良くない
ア:授業時間数	8	0	0	7	0
イ:奈良市独自の教科	9	0	2	4	1
ウ:小中学校の教員の連携	9	2	2	4	0
エ:9年間を見通した英語教育	10	2	3	0	2
オ:特別支援教育	8	0	4	3	0
カ:部活動	9	1	5	2	0
キ:小中合同行事	9	0	4	3	0
ク:ハリソンスクールとの交流	9	1	1	5	1



これからの教育環境を考えるワークショップ (第1回) 報告会アンケート結果 (自由記述)

問2 富雄第三小中学校の取組について、印象に残った取組とその評価、評価の理由をお答えください。
・全体

小中学校と中学校が同じ敷地内にあるような感じであった。小中学校と中学校の文化の違いがあるので、まだまだ難しいと思います。

・イ 奈良市独自の教科

学習指導要領に沿った時数の運用ではない。これが利点に聞こえてしまうのが不安 (先進的ではない)。

・ウ 小中学校の教員の連携

通常の子どもたちの様子がわかる。

・エ 9年間を見通した英語教育

英語会話の学習時間をどう確保するか (先進的ではない)。
継続性がある。

・ク ハリソンスクールとの交流

このような交流は市内でもしています。

問3 富雄第三小中学校の施設 (ハード面) について、気になった点があればお書きください。
回答なし

問4 富雄第三小中学校の施設見学の様子をご覧になって、気になった点があればお書きください。

○ 小中一貫のデメリット

○ メリット、デメリットをわかりやすいように示してほしい。子ども達の様子がもっとと見てみたかった。

○ 小中一貫校の課題、短所の紹介もお願いします。小中一貫校以外の特色ある学校 (先進校) の紹介も。小中一貫校は予算、人的物的 (施設・設備) がないと成功は難しいです。

